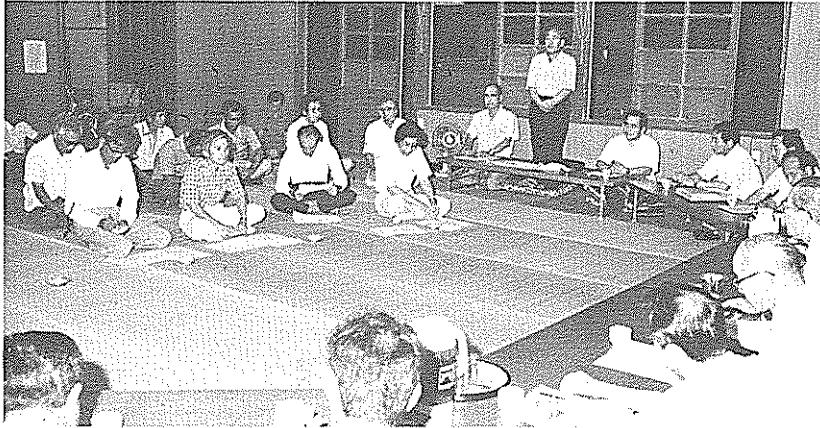


上水道整備、地元の協力も必要

岩村地区 市政懇談会

文化教養施設の

充実を要望



公民館事業の一環として、岩村地区で七月十日、市政懇談会が地区公民館で開かれ、住民約三十人が出席し、市政全般や地区の問題など、三時間わたって熱心に話し合いました。

まず、小笠原市長が「今までは財政、同和、空港を三本柱に行政を進めてきたが、今後は、教育と企業誘致の二つを加え、重点的に取り組む考えです。財政事情は、依然厳しい中で、市民ニーズにも答えてゆかなければなりません。しかし、本市には輸送網の整備など、発展の条件は少しずつ整ってきたように思います。これらの条件を活用して、公害のない優良企業を誘致し、少しでも豊かな町になるよう努力していきます」と、あいさつ。

約三時間、地区の抱える問題など熱心に話し合った

とつてまとめた質問、要望について話し合いました。

話し合いの内容は―

□五十九年度当初予算には、開発公社への借金の返済金が組めなかつたとか。今後の負債返還はどのように計画しているのか。

■公社への負債は、すぐに返済できるとは思っていない。計画では年二億円の返済とともに、早い機会に、負債のもととなっている比江山の処分をしたい。

□今年度は、退職者九人に対し新採十二人となっている。人件費の節約など、市として行政改革はどのように。

■臨時職員で対応している面もあり、一概に増やさないとというわけにもいかない。行政改革については、新しく庁内組織を設け、事務改善に努め、民間委託についても今後検討する必要があると思っている。

□空港のジェット化に伴い、岩村地区でも騒音被害が出ているが、どのように対処を。

■空港の地上設備はまだ完全に整っておらず、まず安全第一のコースで飛んでいる。今、県の方でも専門委員が、安全で騒音の少ない飛行コースを検討中だ。市としては、騒音公害について国、県に対して積極的な働きかけを続けていきたい。

□岩村地区の上水道整備について、行政は、もっと積極的に取り組んでほしい。

■以前、水源が確保できればやるということで、地元とも話がつき、五十七年度にはボーリング調査をして、三カ所の適地を見つけたことができた。しかし、地元での理解が得られず、そのままの状態となつている。水道局としては、水源地さえ提供してもらえば、いつでも取りかかると考えた。

□生涯教育が言われる中、老人の生きがい対策について、市はどのような取り組みを。

■高齢者教室など、お年寄りに学習の場を設けるとともに、ゲートボール大会や体育大会の催しなど、心と体の健康づくりに向けて、事業を進めている。

このほか「山田堰の水止めの際、水路の土砂の捨て場を確保してほしい」「文化教養施設の充実」などの要望も出されました。出席者の中には、細かな資料を作った方もあり、十一時前まで熱心に話し合い、行政について理解を深めました。

